

R22a MAGNUM project (3). ハレアカラ専用望遠鏡設置の進捗状況

小林行泰^{1,3}、吉井譲²、峰崎岳夫²、青木勉²、塩谷圭吾³、菅沼正洋^{1,2}、富田浩行^{1,2}、
B.A.Peterson⁴ (国立天文台¹、東大理²、総研大³、ANU⁴)

MAGNUMプロジェクトの進捗状況を報告する。MAGNUMプロジェクトは1995年度より東大COEプログラムによりスタートした計画で、多数の活動銀河の可視赤外多波長モニター観測を行なうことにより、これら活動銀河核までの距離を測定し、最終的には宇宙論パラメーターを求めることを目的とするものである。

観測システムの主要部分となる口径2 mの経緯台式望遠鏡は、9月にアリゾナでの仮組み立てを行ない、その後マウイ島ハレアカラ観測所において本観測へ向けての整備・調整が行なわれている。講演では仮組、現地調整などの様子も含め、プロジェクト全体の進捗状況について報告する。